

# 日本学術会議公開シンポジウム

## ポストコロナ時代に求められる看護系人材

令和4年5月21日（土）

13:00-16:00

オンライン開催



ご登録はこちら

<https://vb.wufoo.com/forms/k1xb61hm115d18m/>



新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックにより、持続可能な医療の在り方、とりわけ人材育成のあり方が重要性かつ喫緊の課題となっている。看護職は保健・医療・福祉の多様なシステムにおいて、健康課題をもつ様々な人々に対し、フロントラインとして予防や感染対策にあたっており、その存在意義がクローズアップされている。

COVID-19は病原体というミクロのシステムから医療崩壊や介護崩壊、経済・産業の危機など、様々な社会システムの危機へと連動しつつ拡大している。したがって、それぞれの課題は密接に関連してお切り離すことができず、包括的にとらえ、社会全体で取り組む問題解決へのアプローチが求められている。

看護学は、人の生命を救う〈キュア〉と人を癒す〈ケア〉という行為を融合することにより心身の健康を向上させ、日々の営みを意義あるものとするよう専門的知識・技術を発展させてきた。危機の時代において、社会基盤の核となる人と人、人とモノ、人と環境の交流・相互性について、その在り方の見直しが必要とされており、看護の真価が問われ、さらなる発展が期待されている。

本シンポジウムでは、健康危機に直面している地域社会のニーズに着目し、自治体、地域、医療・介護の現場、専門制度や多職種協働の視点に立ち、ウィズ/ポストコロナ時代にどのような看護系人材が求められるか、そして、如何にして育成・確保するか、という中核的課題について議論する。

主催：日本学術会議健康・生活科学委員会、健康・生活科学委員会看護学分科会

共催：日本看護系学会協議会

後援：日本看護系大学協議会、日本看護協会、日本看護科学学会

# プログラム

## 総合司会：

**神原咲子**（日本学術会議連携会員、神戸市看護大学看護学部教授）

## 開会挨拶

**望月眞弓**（日本学術会議副会長、慶應義塾大学名誉教授）

**武田洋幸**（日本学術会議第二部部長、東京大学執行役副学長）

## 主賓挨拶

文部科学省高等教育局医学教育課課長 **伊藤史恵**

厚生労働省医政局看護課課長 **習田由美子**

## 趣旨説明

**小松浩子**（日本学術会議第二部会員、日本赤十字九州国際看護大学学長）

## 講演（敬称略）

1. 地域に求められる公衆衛生看護人材：行政保健師の立場から

**丹田智美**（北九州市小倉南区役所保健福祉担当部長）

2. 訪問看護から見据える看護人材

**藤田 愛**（医療法人社団慈恵会 北須磨訪問看護・リハビリセンター所長）

3. 役割拡大が求められる高度実践看護師

**塚本容子**（北海道医療大学看護福祉学部教授）

4. 危機の時代の国際協働を推進できる看護人材

**新福洋子**（日本学術会議連携会員、広島大学副学長（国際広報担当））

## 総合討論

### 司会：

**西村ユミ**（日本学術会議第二部会員、東京都立大学教授）

**小松浩子**（日本学術会議第二部会員、日本赤十字九州国際看護大学学長）

## 指定発言

若手研究者の立場から **仲上豪二郎**（東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻教授）

医師の立場から **西村正治**（日本学術会議第二部会員、豊水総合メディカルクリニック／北海道大学名誉教授）

メディアの立場から **本間雅江**（読売新聞東京本社編集局医療部長）

# 講演概要

## 1. 地域に求められる公衆衛生看護人材：行政保健師の立場から

**丹田智美**（北九州市小倉南区役所保健福祉担当部長）

新型コロナウイルス感染症の感染拡大において、保健行政では想定外の対応が必要となった。状況が変化するため、情報収集力や迅速かつ柔軟な対応能力が求められた。また、地域保健活動の展開にあたり、全体のマネジメント、関係者との連携、リスク管理、ICT活用等も必要とされ、総合的な能力も高める必要があった。これらを備えた人材の育成は、平時の保健師活動に基本をおき、組織的に健康危機管理能力を高めていく必要がある。

## 2. 訪問看護から見据える看護人材

**藤田 愛**（医療法人社団慈恵会 北須磨訪問看護・リハビリセンター所長）

私の自宅療養者・入院待機者への第四波期間の訪問は、52名315回だった。何日待っても入院できず、中等症、重症となり、多くの方がお亡くなりになった。一回ずつの訪問で経験を重ねながら、自宅療養・入院待機者への訪問看護を見出していった。私が第四波を経験して与えられた役割は、「コロナでもコロナでなくても自宅で訪問看護を必要とする人々の命と生活を守り、看護師を守り、看護を守ること」だった。

## 3. 役割拡大が求められる高度実践看護師

**塚本容子**（北海道医療大学看護福祉学部教授）

新型コロナウイルスの感染拡大により、医療機関や福祉施設でのクラスターが相次ついで。医療体制の強化も常に言われていたが、実際は追い付かず、リソースが十分でない地域では、医療ひっ迫による患者の重症化が顕著であった。本講演では、クラスター発生施設の、援を継続的に行った私自身の経験をお伝えし、今後の高度実践看護師の役割を検討する。またアメリカにおけるHIVパンデミックで、高度実践看護師がどのような役割を發揮し、それが現在につながったのか歴史的変遷も加味し、現状と比較する。

## 4. 危機の時代の国際協働を推進できる看護人材

**新福洋子**（日本学術会議連携会員、広島大学副学長（国際広報担当））

新型コロナウイルス感染症拡大後、海外渡航を伴う国際協働はワクチン接種や国の渡航規定など様々な条件下で進めなければならなくなった。持続可能な開発目標も、ゴール達成に向けた活動の遅れが指摘されている。2021年にGlobal Young Academy総会の日本開催を計画していたが延期に至った経過、議論を進めながら感じたワクチンの南北問題、知識格差の倫理的問題、これらをどう人材育成に反映させていくかを議論したい。